

現時点の貯蓄や資産を把握しよう

お金の出入りを「見える化」する手段として真っ先に思い浮かぶのは家計簿ではないでしょうか。一定のフォーマットで収入や支出の金額、内容を書き込み、お金の出入りを記録することにより、無駄な支出がないかをチェックすることができます。

しかしながら、不動産や自動車など保有資産が多く住宅ローンなども抱えていますと「ムダな資産がないか」「ローンが多すぎないか」といった問題意識を持っていても家計簿からは解決策が見えてきません。

(家計版バランスシートの作成)

ここでお勧めしたいのが「家計版バランスシート」の作成です。資産に目が向きがちですが、負債(借入れ)もバランスよく見て、財産目録を作成します。

そもそもバランスシートは、企業が決算時に貸借対照表(=バランスシート)を作成し、会社にはどれだけの資産と負債と正味資産(利益の蓄積)があるかを調べて経営状態を表すものですが、これを家計改善に応用します。

これにより「使っていないゴルフ会員権があった」、「住宅ローンを繰り上げ返済しても資金的な余裕もある」ことなどが、わかってくるはずです。もし、金利の高いローンが残っているなら、眠っていた普通預金や金利が低い定期預金を解約してローンの繰り上げ返済に回せば、家計の改善につながります。バランスシートにより「必要なものと不要なもの」がはっきり見えてきます。

それでは、家計版バランスシートの作成方法を見ていきましょう。図表に展開されているとおり、左側に資産を、右側に負債と純資産を記入します。純資産とは資産合計から負債合計を差し引いた額であり、いわば正味資産と言えます。

図表

■家計版バランスシートを作成してみよう

(〇〇家のバランスシートの例)

(金額単位: 万円)

資産			負債	
現金 預金	現金	50	住宅ローン	2000
	普通預金	100	自動車ローン	50
	定期預金	200	教育ローン	100
投資 資産	個人向け国債	100	負債合計	2150
	投資信託	200	純資産	
	外貨預金	50		2250 (うち金融資産1200)
積立 資産	財形貯蓄	250		
	養老保険	100		
	個人年金保険	150		
自家用車(時価)	100			
会員権(ゴルフ会員権)など	100			
土地・家屋(時価)	3000			
	資産合計	4400	資産・純資産合計	4400

資産の欄には、金融資産のほかに自宅を含めた土地・家屋などの不動産、貴金属類、美術・骨董品、さらにゴルフ会員権などもあれば記入します。その際、資産を手に入れた時の取得価格(簿価)ではなく、現在換金したらいくらになるかという金額(時価)で記入してください。

その際、金融資産やゴルフ会員権を除くと、現在の評価額がわかりにくいのが実情です。不動産は、インターネットの不動産情報サイトや新聞の折り込みチラシなどを活用して、近隣の土地や家屋がどのくらいの値段で売り出されているかを参考にして評価額を比較的低め(堅め)に見積もってみます。

家計版バランスシートは、おおまかに家計の資産・負債バランスを掴むことに意義があります。あまり手間をかけずにザックリと掴んでみましょう。

(家計版バランスシートを見るポイント)

ここで作成した家計版バランスシートを見るときのポイントを2点指摘します。

まず、資産の内訳を見る際に資産構成の「偏り」に注目します。例えば、預貯金の比率が高すぎる場合は収益性が低いといえますので、収益性を高めることが今後の課題となります。同じ預貯金においても、金利がほとんどつかない普通預金に残高が多くあれば、金利の高い定期預金などに移し変えることを検討しましょう。

逆に株式などのリスクのある金融資産に偏り過ぎていると、予期せぬ経済ショックで家計に大きなダメージが及びかねません。また、資産総額のほとんどが不動産ですと、急にお金が必要となったときに対処できなくなります。資産構成のバランスがどうなっているかに注目しましょう。

もう一つは、「純資産」で家計の健全性を見ることです。特に純資産がマイナスとなる状態は、負債合計が資産合計を上回り「債務超過」状態と呼ばれ、注意を要します。

資産と負債が両方とも多い場合も、返済できる負債があれば返済を考えます。その返済を進めますと資産合計に占める純資産の割合(比率)が上昇しますが、この比率の上昇は家計の健全性の向上につながります。

例えば、

- ・リボ払いやキャッシングで金利が10%以上もしているのを繰り上げ返済をすること
 - ・高い金利の住宅ローンがあれば低い金利に借り換えること
- など、検討してみてもいいのではないでしょうか。